

「古典の世界II・論語」

定期テスト対策練習問題

年	組	番	名前
---	---	---	----

次の「論語」について問いに答えなさい。

論語

子曰はく、「己の欲せざる所は、人に施すこと勿かれ。」と。

「の部分の現代語訳

自分が人からされたくないと思うことを他人に対してしてはならない。

子曰はく、「過ちて改めざる、是を過ちと謂ふ。」と。



問1 「論語」について説明している次の文の（ ア ）～（ エ ）にあてはまる言葉をあとの選択肢からそれぞれ選びましょう。

「論語」は、（ ア ）の古代の（ イ ）である（ ウ ）と、その弟子たちの問答などを記録した書物。（ エ ）にも古くから伝えられ、人々の生き方や考え方に大きなえいきょうをあたえた。

【選択肢】

カ：日本 キ：韓国 ク：中国 ケ：インド コ：孟子 サ：釈迦
シ：孔子 ス：仏陀 セ：仏教徒 ソ：思想家 タ：皇帝
チ：天皇

【ア】

【イ】

【ウ】

【エ】

問2 赤線「子」の読み方をひらがなで答えましょう。

問3 赤線「日はく」の読み方を現代の書き方を使ってひらがなで答えましょう。



問4 赤線「己」の読み方をひらがなで答えましょう。

問5 赤線「施す」の読み方をひらがなで答えましょう。

問6 赤線「勿かれ」の読み方をひらがなで答えましょう。

問7 「子」とは誰のことですか。次の中から選び○でかこみましょう。

ア：弟子

イ：こども

ウ：世の中の人びと

エ：孔子

問8 「日はく」とはどんな意味ですか。次の中から選び○でかこみましょう。

ア：毎日されている

イ：一日中されている

ウ：おっしゃるには

エ：呼ばれるには



問 9 「己」とは誰のことですか。現代語訳からぬき出して答えましょう。

問 10 「人」とは誰のことですか。現代語訳からぬき出して答えましょう。

問 11 赤線「過ちて」の読み方をひらがなで答えましょう。

問 12 赤線「是を」の読み方をひらがなで答えましょう。

問 13 赤線「謂ふ」の読み方を現代の書き方を使ってひらがなで答えましょう。

問 14 「過ちて改めざる、是を過ちと謂ふ。」という言葉には、孔子のどのような教えがこめられていますか。次の中から選び○でかこみましょう。

ア：過ちをおこしても、改めれば過ちではない。

イ：本当の過ちとは、過ちを改めないことだ。

ウ：過ちをおこして、謝らないならばそれは本当の過ちになる。

エ：過ちをおかすことで、人は成長するものだ。



「古典の世界II・論語」

定期テスト対策練習問題（解答）

問1 【ア】ク 【イ】ソ
【ウ】シ 【エ】カ

問2 し

問3 いわく

問4 おのれ

問5 ほどこす

問6 なかれ

問7 エ

【解説】 中国では、「子」とは先生や師のことを意味する。
とくに論語の中で出てくる「子」は、孔子のことを指す。



問 8 ウ

【解説】「日はく」とは、「言うには・言うことには」という意味があり、ここでは孔子に対して尊敬の意をこめて「おっしゃるには」とする。

問 9 自分

問 10 他人

問 11 あやまちで

問 12 これを

問 13 いう

【解説】歴史的仮名遣いの「ふ」は現代のかなづかいでは「う」になる。



問 | 4 イ

【解説】「過ちて」とは「過ちをおかして」。「改めざる」とは、「改めない（なおさない）」こと。

「是（これ）」は、「過ちをおかしたのに、改めない」ことを言っている。つまり、人間なのだから、過ちをおかしてしまうこともある。しかし、過ちをおかしたままそれを改めようとしなければ、それこそが過ちだと説いている。

